

第2回まちなかのにぎわい創出円卓会議図書館等複合施設ワーキンググループ議事録

議 題	図書館等複合施設のコンセプト(案)及び施設規模等について		
協議日時	平成30年11月13日(火) 15:30~17:00	会 場	中央公民館 音楽視聴覚室
出席者	<p>川口委員、長野委員、小林委員、吉田委員、水沼委員、結城委員 (欠席委員) 長谷川委員、村山(宥)委員 渡辺理事兼市民部長 生涯学習課 恋塚課長、笹倉課長補佐、今井主任、柴嶺主事、 澤崎一般任用主事 商工課 澁谷主査、泉田主事 政策推進課 竹田主任</p>		
傍聴者	非公開		
概 要	<p>(司会：生涯学習課課長補佐)</p> <p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 図書館等複合施設のコンセプト(案)及び施設規模等について</p> <p>生涯学習課長：資料の説明 生涯学習課長補佐：委員の皆様から御助言や御提案などいただきたいと思う。なお、議長については今回も川口先生にお願いしたい。 (異議なしの声)</p> <p>川口委員：それでは、事務局の説明資料に沿って議論を進める。まず、資料の1ページの全体のコンセプト案と2ページの各施設のコンセプト案について御意見を伺いたい。</p> <p>結城委員：コンセプトが弱いと思う。施設に来た人が音にこだわっていると分かるくらいに表現できるのか。コンセプトがこの程度だとそもそも施設に特色を付けるのは難しいと思う。</p> <p>小林委員：どういう音がするかということだと思う。図書館等複合施設全体のコンセプトだから、当然、鍛冶ミュージアムや理科センターのことも入っての音という言葉だと思う。しかし、図書館だけのことを考えると音にこだわる必要があるのか。音のイメージがここに出てこないと整理がつかない。ただ、ものづくりのまちという特性をいかしたときにもものづくりのまちではどのような音がするかということと、複合施設とのつながりが弱いというか見えない。コンセプトだから、明確にする必要があるが、あえてここでもものづくりのまちを出さなくてもよいのではないかと。ただ、複合施設に鍛冶ミュージアムが入るので、そのつながりの中でこのコンセプトを考えたと思うが、出し方の整理はできているのか。</p>		

川口委員：音は、人によって様々に感じられるのではないかと思う。にぎわいと図書館機能が両立しており、下はにぎわっていて上は静かな状況で調和していると理解した。若干誤解されるかなとも思うので、皆さんに理解される言葉にしたらどうかと思う。よくあるのは市民に親しまれるとか、たくさんにぎわうことなどよく聞いている。

水沼委員：外から移住してみて、三条市はものづくりのまちで新しく生み出すこと、よりよくすることで成長する気風があるまちだと思う。自分なりにコンセプトを掘り下げると、新しいものを生み出し、成長する学びの部分と鍛冶ミュージアムの過去からつながる未来をつくっていく施設であればよいと思う。

小林委員：音がどのような音か答えていただかないと話が進まないと思う。鍛冶ミュージアムや理科教育センターではそれぞれの音があるか知らないが、図書館のことを考えると本当に音が必要なのか。わざわざコンセプトに入れなければならないのか。コンセプトに入れるかどうかで全体が変わってくると思うし、見るべき部分も変わってくるのでその部分について答えてほしい。

市民部長：音をコンセプトに上げさせていただいたのは、そもそも、図書館は誰のものか、小さなお子さん連れが来た時に、子どもが騒ぐたびに外に連れ出さなければならないのは図書館なのかという観点で検討させていただいた。学校でできない実験ができ、空いた時間は一般にも実験室を開放して音のあるイベントができるのではないかと、また既存の図書館の静かな雰囲気慣れている方々も今までどおり過ごせることも考え、それらが共存できるコンセプトとして音を提案させていただいた。

もう1点は、ものづくりのまちに特化したもの。各地域の特色をいかして新しい図書館が造られている。岐阜の多治見市では瀬戸物文化を中心とした資料が日本一であり、周辺の陶芸家を始め、近隣の住民が図書館を中心として瀬戸物文化が発展している。そういうことでもものづくりのまちという点を入れさせていただいた。

川口委員：子どもたちが音を出しても受け入れられる図書館ということだと思うが、行ってみたいと思わせる部分と本来の図書館の機能が調和していて、ここにしかない伝統的なものをうまく表現できる言葉があるとよいのではないかと。

結城委員：示されたコンセプトは施設の機能的なものであって、目指すべきビジョンにはならないのではないかと。コンセプトをものづくりのまちだけにして、ものづくりのまちのコンテンツとして図書館はどこが強いのかをはっきりさせた方がよいと思う。音にこだわったというコンセプトでは施設の機能のようなもので、施設に行く理由にはならない。5年、10年運営していく中で軸になるようなコンセプトを作り込んだほうが後々やりやすい。

長野委員：音のコンセプトについて、そのとおりだと思う。遊ぶと同時に興味のあるものについて見たり、体験したり、学ぶことができる場所として鍛冶ミュージアム、理科教育センター、図書館が連携できる強力なコンセプトを決めることが重要だと思う。

吉田委員：地域の子どもは図書館に行けない状況だと思う。親子で行けるような場所であればいいと思う。みんながそこへ行くという点で若い人たちが子ども連れで行ったら楽しいと感じられ、ステージえんがわと周辺が一体となって元気が出るような図書館があるとよい。

小林委員：次のページにある知育プレイゾーンの設定についての是非を議論すると、また音のコンセプトの議論に戻らと思う。ここで結論を出さなくてもよいのではないか。

川口委員：前に進めながらコンセプトについて改めて議論をしてもよいと思う。まとめとして、こだわり型の学びができて、ものづくりもできるから行きたくなるコンセプトが中心にないとまとまらないのではないかと思う。

次に、3ページから6ページについて御意見を伺いたい。

小林委員：3ページの図書館の知育プレイゾーンの設定について、一つは、前回の会議で示された資料は親御さんたちの行きたい施設全体のアンケートであって図書館に限定したものではなく、図書館を利用しない理由につながらない。子育て支援課にもこのサービスが必要かどうか確認した。子どもを預けられるサービス、いわゆる託児所が図書館の中に設けられることになるが、私自身、子どもがどこまで騒ぐかのイメージができない。次に、親の欲求に対応するという点で子育て中の女性が自由に過ごせる時間が提供できるのか。その部分が本日の示された資料では整理されていないと感じる。子育て支援課は、あそぼってやすまいるランド等で託児所を併設しているが、すまいるランドに併設している児童向けの図書やしかけ絵本のある図書館にどうやって来てもらうか課題が出ている中で、示された部分についてどうしても入れ込まなければならない要素はないとの回答を得た。音にこだわる視点は再考の余地があるのではないか。

川口委員：子育てをしている方が託児所に預けて過ごすことを想定しているのか、預けなくて子ども連れで過ごせることを想定しているのかをはっきりしてほしいのではないか。

生涯学習課長補佐：その部分は両方を想定している。

川口委員：最近、サードプレイスという自分を取り戻す場所が流行っていて、3ページの(3)のブックカフェの部分が、子育て中の方がお子さんをちょっと預けて自由に過ごせる部分ではないかなと思ったのだがどうか。

小林委員：図書館の知育プレイゾーンについて、図書館サービスが子ども向

け蔵書や読み聞かせ事業だけに限定してある中で、それ以外に子どもを預けるサービスとして書かれているから誤解を招くのではないか。

生涯学習課長補佐：小さいお子さんが読書をする部分を広め取る中で、そこから理科教育センターのガラス張りの実験室に慣れ親しんでほしい部分もあるが、保護者の方が図書を探す中で目を離すこともあるため預かりサービスの付加を考えている。

長野委員：ものづくりという観点で総合的に体験して連携する施設を造るのであれば、具体的な過ごし方をもう少し詳細に示してもらう必要がある。

結城委員：複合施設が子どもを預けるための目的の場所であってはならない。結果として体験や学ぶ上で子どもの安全が確保できるサービスがあるべきだと思う。子育て世代の知人から車に乗ったまま図書を借りられるようにドライブスルーのようなカウンターを外に付けてほしいという要望もあり、子どもを預かる機能を売りにしなくても子どもを連れてきやすい雰囲気を作ればよいと思う。

小林委員：この部分について子育て支援課と協議したらどうかと思う。

川口委員：理科教育センターは手で触れるなどおもしろがられるもので、エッジをきかせて普通の図書館では得られないものをうまく考えてほしい。

結城委員：ものづくりのことを調べられて、理科教育センターで体験できて実際作ることまでできるということは強みであり、ものづくり学校的なものになるのではないかと思う。

生涯学習課長：学ぶことや体験することだけでなく、研究まで行く方までいる中でどのような表現がよいかということだが、なにか良いフレーズがあればよいと思う。

水沼委員：ものづくりには必ずストーリーがあって、鍛冶ミュージアムでストーリーとその作り手の心を展示できれば、過去から未来につながる展示になると思うし、ものづくりをしたくなるのかなと思う。

長野委員：歴史だけでなく、ストーリーもあり、現在の発展している様子を働いている人が再確認できるような三条ならではの鍛冶ミュージアムであればよいと思う。

小林委員：各施設のコンセプトを複合施設のコンセプトとしてあえて一つにまとめる必要があるのか。各施設の個別のコンセプトのままでよいのではないか。

市民部長：今まで単独では出来なかったものが三つの施設を一つにしたことによって新たに生まれていく観点で考えたが、おっしゃられるとおり、コンセプトはこれではないかもしれない。

川口委員：造語でもよいが、分かりやすい言葉で統一的に強いコンセプトが必要だと思う。もう一回整理していただきたい。

市民部長：これを端的に表すと「見る」、「学ぶ」という言葉になると思う。
音はコンセプトではなく機能だと思う。

川口委員：図書館に来ることによって何が生まれるかだと思う。

結城委員：ストーリーを付けることによって、過去、現在、未来がつながり、美しくなると思う。

川口委員：アメリカのシカゴだとチルドレンズミュージアムというのがある
て、その町の特徴的な職業を遊びの中で体験し、その町で育った子
がその町の職業に憧れる。新しい施設もそうなればよいと思う。

長野委員：JAL に空育という空の仕事に興味をもってもらう教育制度がある。
空の歴史を学び、飛行機について学ぶことによって最終的にパイロ
ットやエンジニアになったという教育がある。造語でも一つの言葉
であってもよいが、コンセプトとして中心にあると各施設のつなが
りが見えやすくなると思う。

川口委員：次に、7、8、9 ページについて議論をお願いしたい。

長野委員：小学校があったときに建物があることで、グラウンド側とえんが
わ側が分断されていたイメージがあった。このコンセプト案では駐
車場に公園が併設されるように捉えていたので、新しく建物を建て
ることによって分断されないようにお願いしたい。

生涯学習課長補佐：体育館の部分について、費用を掛けて文化財の調査することで大
きく建物を造ることも内部で検討している。それが可能になれば南
北を分断せずに済むと思う。

市民部長：川口委員の著書の「集客の科学」で紹介されていた金沢 21 世紀
美術館を見てきたが建物に四方八方から出入りできるような真ん
中に配置されるのが集客を図るにはいいのかなとは個人的に思う。

川口委員：金沢 21 世紀美術館は中心の部分は有料な部分もあるが、周りの
敷地は無料であり、市民の方の絵を飾ったりする中で、市民同士交
流や回遊できる面もあるので分断しない考え方もあると思う。

市民部長：コンセプトもそうだが、そもそも社会教育施設としての機能を担
保する中で、いかに三条らしさを出していけるかで検討をしている。

小林委員：ソフトの運用面で教育文化の拠点として発揮できると思うが、
図書館法は昭和 24 年にできた法律で時代遅れのところもあるので、
変更になっていないということは押さえておかなければならない。

市民部長：文部科学省からは、図書館を造るときの新しい指針は出ている。

川口委員：まとめとして、ストーリーを含めコンセプトのところをもっと練
っていただいて、整理したものを次回確認することとする。

3 閉会

次回開催：平成 30 年 12 月中旬から下旬の予定